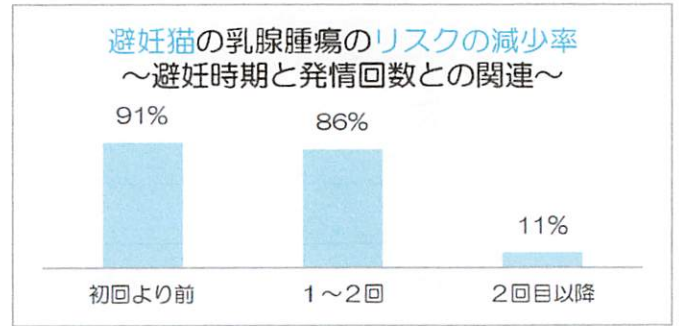
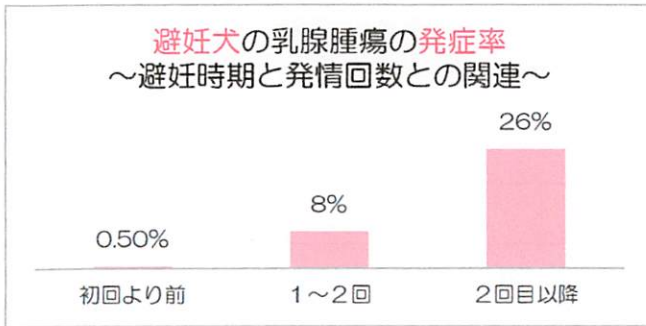


避妊手術の一番の目的は病気の予防です

- 犬の**乳腺腫瘍**の50%、猫の90%が**悪性**です。



- 未避妊のメス犬での**子宮蓄膿症**の発生率は0.6%で、9歳以上の高齢犬では**66%以上**で見られます。
- 未避妊のメス犬は、避妊メスよりも、**糖尿病**になりやすく、特に発情休止期にリスクが高くなります。
- 避妊することにより、**卵巣腫瘍**、**子宮腫瘍**の予防ができます！
一方、**一部の腫瘍**（骨肉腫や血管肉腫、リンパ腫）の発生リスクが増加する可能性があります…
- ある報告によれば、1～2割の避妊メスでは**尿失禁**がみられ、高齢犬の避妊後に多く発症する傾向があるとされています。また、尿失禁の75%は避妊手術後3年以内に発症します。
- 避妊手術を行う事でリスクの増加する疾患、減少する疾患がありますが、

総じて**寿命が1-2割程度長くなる**との報告があります



- 避妊手術により、下記の**問題行動を減少**させることができます。

犬

- 発情期の放浪
- 一部の不安行動

猫

- 発情期の鳴き声
- 一部の不安行動

- 望まれない妊娠・出産による**捨て犬、捨て猫を防ぐ**ためには避妊手術を行う事が重要です。



ただ、避妊したワンちゃん、ネコちゃんは、**太りやすくなります**。

必要エネルギーが
15%-25%減少

DOWN



そのため

ごはんを**10-20%減量** or
専用 food へ変更が必要



避妊時期

子宮蓄膿症に関しては、手術時期は遅すぎなければ問題ありません。しかし、乳腺腫瘍の予防で考えると、発情が発現する以前の**3-6か月齢**が望ましいでしょう。